

地域別懇親会E班イベント

「迎賓館赤坂離宮見学」

去る7月12日、美工E班（高崎線沿線地区一本庄・深谷・熊谷・北本・鴻巣）のイベントとして、“迎賓館”を見学しました。参加者は12人。

この日はあいにくの雨模様でしたが、館内見学のため濡れずに済みました。さすがに海外のビブを対応するところだけあって、“絢爛豪華”の言葉がぴったりでした。

2019・7・24 写真：野口忠雄・投稿：田中昭文



迎賓館—主庭にて



四ツ谷駅から歩いて6～7分で正面ゲート。建屋はゲートから2分ぐらいの距離がありした。ゲートも建屋も立派。



世界各国の国王、大統領などをお迎えし、外交活動の華やかな舞台となる迎賓館

迎賓館赤坂離宮は、明治 42 年に東宮御所として建設された、日本では唯一のネオ・バロック様式による宮殿建築です。当時の日本の建築、美術、工芸界の総力を結集した建築物であり、明治期の本格的な近代洋風建築の到達点を示しています。第 2 次世界大戦の後、10 数年を経て日本が国際社会へ復帰し、外国からの賓客を迎えることが多くなったため、国の迎賓施設へと大規模な改修を施し、和風別館の新設と合わせて昭和 49 年に現在の迎賓館として新たな歩みを始め、現在に至っています。その後、平成 21 年に行われた大規模改修工事の後には、日本の建築を代表するものの一つとして、国宝に指定されました。これまで多くの国王、大統領、首相などをお迎えしたほか、主要国首脳会議などの国際会議の場としても使用されています。



これが正面玄関：招待者はここから内部へ



これが我々の出入り口：入り口の幅は一人分。左とは天と地の差。



朝日の間-最も格式の高い部屋



クリスタルのシャンデリア

朝日の間続き



女神オーロラの天井画

室名の由来にもなった天井画は、フランス人画家が描いたもので、朝日を背にした暁の女神オーロラが、左手に月桂樹の小枝を、右手には四頭の白馬の手綱を持ち、颯爽とチャリオット（香車）で天空を駆けている姿が描かれています。



47種類の色の糸で織られた敷物

床に敷かれた敷物「緞通（だんつう）」は、桜花をモチーフにしたもので、この微妙な色調の変化をつけるために、47種類の色の糸が用いられています。この糸の使い分けが、日本風の繊細なぼかしを表現し、部屋全体に落ち着いた雰囲気と格調を醸し出しています。

花鳥の間



四季折々の花や鳥を描いた七宝焼

木曽産のシオジ材の板壁には、四季折々の花や鳥を描いた楕円形の七宝焼の額が30枚飾られています。この七宝焼は、明治を代表する日本画の巨匠・渡辺省亭（わたなべ せいてい）が下絵を描き、七宝焼きの天才といわれた湊川惣助（みなみかわ そうすけ）が焼いたものです。日本画特有の濃淡やぼかしの表現技法が見事に再現されており、七宝の最高傑作と謳われています。



花鳥の間続き



晩餐の席を飾るにふさわしい天井画

格子形に組まれた天井には、フランス人画家が描いた油彩画 24 枚と金箔地に模様を描いた絵 12 枚が張り込まれています。四隅の絵には、狩りで仕留めた鳥や獣の姿が描かれています。

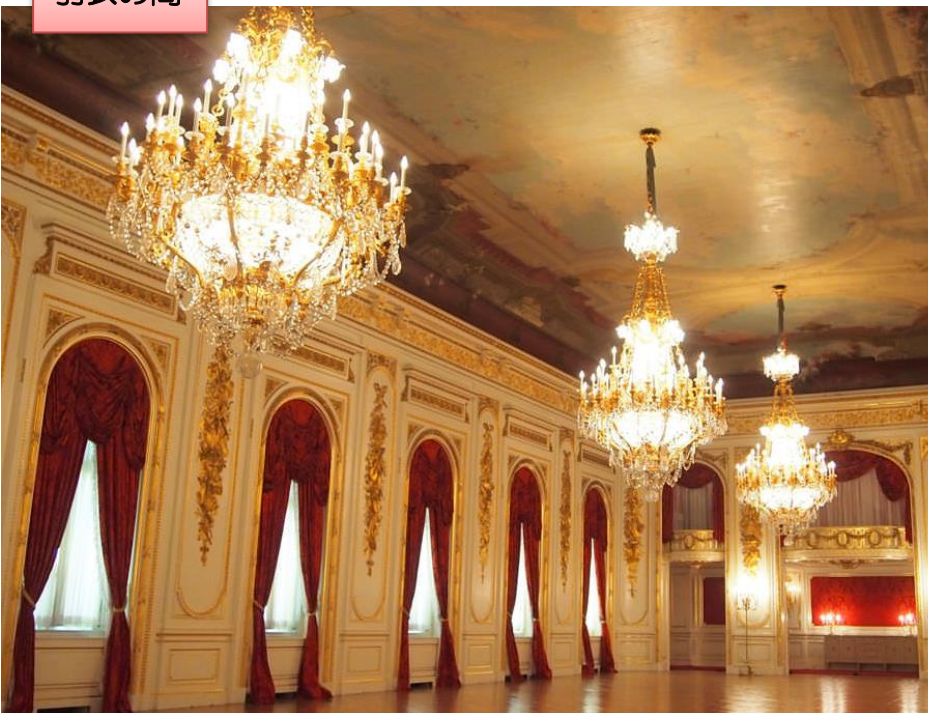
彩鸞の間



黄金の霊鳥

左右の大きな鏡の上部と大理石で作られた暖炉の両脇に、翼を広げた華麗な鳥の彫刻が飾られています。これは「鸞」(らん)と呼ばれる霊鳥の一種で、部屋の名前の由来になっています。

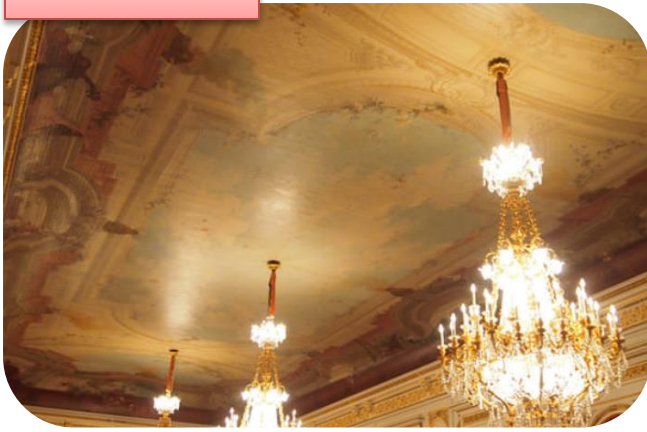
羽衣の間



天女が舞う華やかな な舞踏室

羽衣の間は、迎賓館の西側に位置します。謡曲「羽衣」の景趣を描いた大絵画が、天井に描かれていることに由来しています。「鏡と金色と緋色」の華麗な大部屋で、かつては舞踏室と呼ばれていました。雨天時の歓迎式典や晩餐会の招待客に食前酒が供されるところでもあります。

羽衣の間続き



謡曲「羽衣」の景趣を描いた天井画

「虚空に花ふり音楽聞え、霊香四方(れいきょうよも)に薫ず」という謡曲「羽衣」の一節を、フランスの画家が描いたものです。絵の中では、まるで建物の中庭から、空を見上げたかのような情景が広がっています。四方に描かれた香炉からは、空にかぐわしい香りを放つ煙が立ち上り、赤やピンクの花が舞うなど、まさに天女が地上に降り立った直後のただならぬ空の様子が描かれています。



当館最大級のシャンデリア

この部屋を照らす3基のシャンデリアは、クリスタルガラスを主体に約7,000個ものパーツを組み合わせた当館において最も大きく、最も豪華なものです。輝く装飾の中には、洋風の仮面や楽器など、舞踏室にふさわしいモチーフが散りばめられています。

昼食

迎賓館から歩いて7, 8分の「ホテルニューオータニ」の中にある「なかじまや」という蕎麦屋で食べました。近辺に安いところがなく、適当なところを探すに幹事は苦労したようですが、手ごろな値段でおいしいお蕎麦でした。ただ、ホテル内なので10%のサービス料を取られたのは予想外でしたが、その分対応は町中の蕎麦屋のおばさんのよりはるかに良かったです。(差別的発言)



そば待ちの間、会計の方は大忙し。他の人は楽しく雑談



蕎麦は美味しかった！！



「なかじまや」の暖簾前で



昼食の後、ホテル内の店も覗くことなく（高いのが分かっているの）よってお土産もなく、解散となり帰路につきました。流石に美工メンバーだけあり、何人かの方は上野の美術館に回ったようです。

皆さん、お疲れ様でした。E班の幹事の方々、楽しい一日をありがとうございました。

それでは、皆さんまたの機会までお元気で！

次回の担当は、B班（狭山・所沢）の方々です。よろしく。